

別冊

# おいしいだものがたり

～資料館資料編～ ■特別展「鉄道が招いた近代の巨匠」より

現在資料館では、特別展「鉄道が招いた近代の巨匠」を開催中です。今回は展示作品の中から、金山平三『最上川の月』をご紹介します。

『最上川の月』は、どこか印象派の画家クロード・モネの『印象・日の出』を彷彿とさせる作品です。印象派・印象主義は19世紀後半のパリを中心に起こった芸術運動ですが、日本では20世紀初頭に芸術家たちが留学先から技法を持ち帰り、美術雑誌でもようやくその全体像が紹介されるようになりました。しかしそれでも、当時の日本国内で本物の印象派作品に触れることは叶わず、画学生たちはなおさら印象派絵画への憧憬を募らせていくことになります。金山平三もまたその一人でした。そんな中フランス留学の機会を得た金山は、制作による絵画修業よりも、積極的に印象派絵画を実見し、自らに吸収させていきました。金山平三は印象派の中でもとりわけモネを好んでいたといえます。そのモネの代表作『印象・日の出』は、払暁の空や海面に反射する陽光、あるいは朝靄の乱反射などといった光の要素が印象派特有の筆触分割の中で溶け合い、早朝の港の様子が瑞々しく描かれた作品です。



一方金山平三の『最上川の月』は夜の光景で、ごく限られたモチーフで構成されています。月と最上川、あとは兩岸の杉林が月の逆光を受けて暗がりやを成す様子ぐらいでしょうか。画面全体が暗いトーンに沈んでいるせいでそれさえも明瞭ではありません。モネの作品が画面から溢れんばかりの光を描写するのに対し、全く真逆のものかとも思えます。しかしよく見てみると、闇の中には実に多くの色彩が含まれていることがわかります。赤味がかかった月光がじんわりと染み出すようにひろがった夜空や、宵闇に沈みながらもその流れを予感させるように月影を映す最上川は、同じ闇の中にありながらそれぞれが異なるモチーフであることを違和感なく伝えています。

月の微弱な光だけを光源とする『最上川の月』のような作品では、ともすると全体が単一の闇に埋没してしまいかねません。太陽光下でダイナミックに展開する光を捉えるのに比べ、より繊細で微妙なニュアンスで構築する必要があります。対象の色調を把握する確かな目と、それを表現する卓越した技術を兼ね備えていなければ描けない夜景です。この作品は、印象派の光の表現を独自に消化し深化させて描いた『印象・日の出』の翻案ともいえるかもしれません。

特別展「鉄道が招いた近代の巨匠」は11月6日(日)まで



大石田町公式アカウント開設

## LINEをはじめました

防災情報などを  
受け取ることができます。

### 友だち登録を お願いします！

登録方法

右の二次元コードを読み  
取って友だちに追加して  
ください。



大石田町公式LINE

## 防災放送の内容を

### 電話で確認できます

防災放送が聞き取りにくい、放送内容を確認したい等のご意見をいただき、町では防災放送確認ダイヤルサービスを開始しました。

このダイヤルは定時(夕方6時のメロディ等)放送を含め、直近の放送から8時間以内の内容を順次聞くことができます。

## 確認ダイヤル：0237-48-8444

■総務課総務グループ TEL35-2111 (内線218)

町の人口 令和4年9月1日現在

世帯数	2,261戸	(-3)
総人口	6,396人	(-16)
男	3,170人	(-10)
女	3,226人	(-6)

(8月中の異動)

出生	3人	転入	1人
死亡	6人	転出	14人

※この人数は外国人も含めたものです。